

解答

一

問一 離れて暮らす祖母が自分のことを憶えてくれたという嬉しさと、認知症の祖母が朔美が高校を卒業すると勘違いしていることへの戸惑い。

問二 卒業祝

問三 イ

問四 ア

問五 和仁の提案は何かを乗り越えて次の段階へ成長するという意味で卒業をとらえているのに対し、朔美の案は、卒業という意味をまるでもっていない点。

問六 祖母の勘違いから発した軽い遊びのつもりだった挑戦が、「逆上がりができない自分を卒業したい」という決意となり、それを自分以上に応援してくれる大切な人の前で達成したいという強い思いになっていった。

問七 イ

二

問一 １ ア ２ エ

問二 母親の声

問三 わざわざ話をする時間を作るのではなく、何かしながら耳だけ傾け、気持ちはいっさり向き合っている状態。

問四 ア

問五 ずれや齟齬、すれ違いなど試行錯誤のくり返しの果てに信頼が生まれてくるから。

問六 聴くプロが現れたことで人の話を聴くことをプロ任せにしてしまい、ますます他人の話を聴かなくなるという状態。

三

① 博士 ② 刻（んで） ③ 分別 ④ 巻頭 ⑤ 災難

解説

一

問六

逆上がりに何度も失敗しながら朔美は「こんなことで何をしてるんだろう」「ばかみたい」と思っていたが、和仁の「卒業して、おばあちゃんに電話しようよ」という言葉に、「わたしを今まっすぐに見つめる和仁と、二人で決めた、二人だけの話だからこそ、実現させたい。」と思い直し、ついに逆上がりができた時、「人生初の逆上がりがここでできてよかった」「自分以上に喜んでくれる人の前で逆上がりができた喜びが、全身に満ちていく」とあります。

二

問五

同じ段落の中で「料理を作りながら、何かをしながら耳だけちょっとそちらに傾けて聞くということ」「ちゃんと聞いていないのかなというくらいのが、話すほうも話やすい」「このひとはいま自分のためにここにいてくれるという感触があればいい」などと述べられていることをまとめて答えましょう。